



加藤 可奈子(かとう かなこ)
クロマチック・アコーディオン奏者

1979年、門真市生まれ。4歳からアコーディオンを始める。96年、全日本アコーディオンコンクール総合優勝。フランス留学中、3度の全仏コンクールで1位。帰国後、全国各地でのリサイタルのほか、病院でのボランティアコンサートなど幅広く活躍。上野西在住。

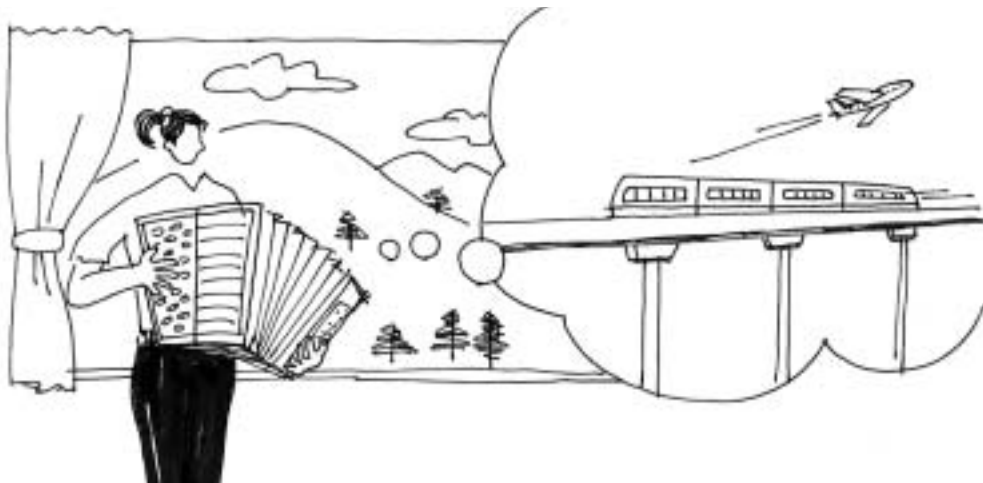
緩やかな時の流れの中で

加藤可奈子

私は高校を卒業したその年の夏、クロマチック・アコーディオン(ポタン式アコーディオン)の勉強のためにフランスへ留学しました。4年間の留学の間に豊中へ帰ってきたのは、年に1度ずつの4回。迎えに来てくれた父の運転で自宅まで帰るコースは、いつも同じでした。

関西国際空港から阪神高速道路を通り、豊中北の出口を出て、阪急宝塚線の高架をくぐり、大門公園、豊中郵便局のそばを通って上野西の自宅へ。留学前と変わらない景色を見るたびに、何かほっとした気分になりました。

昨年帰国してから、フランスと日本の違いをよく尋ねられます。その都度、私は「時間の流れの違い」と答えています。フランスは日本と違って本当に時の流れが緩やかです。街の景観から電化製品まで、新しいものにこだわらず古いものを大切にします。10年経っても20年経っても、それほど大きな変化はありません。日本に帰って来て時の流れの速さを実感しています。日本人の文化・芸術の嗜好や、生活様式の変化の速さにはた



ただだ驚いています。

私が留学していた学校は、フランスのちょうど真中辺りのオーベルニュ地方の人口約300人という小さな村にありました。全寮制で日本人は私一人だけ。部屋の窓から見える景色は澄んだ空と緑の山、畑の牛や羊たち。学校から一番最寄りのバス停まで歩いて1時間。そのバスも毎日運行しているわけではありません。パリに出るにはさらに電車に乗り継いで5時間余りかかります。大阪国際空港や新幹線が近くにあり、阪急電車、北大阪急行、モノレール、名神高速、中国自動車道、阪神高速など、どこへ行くのも便利な豊中では考えられないことでしょう。

留学先は、時の流れが緩やかどころか、止まっているような所でした。でも、そのことが留学中の私の気持ちを和ませてくれたように思います。

これからも心の片隅に時の流れの緩やかさも持ちながら、一人でも多くの人にクロマチック・アコーディオンの魅力を伝えたいと思っています。